

令和4年度 学校評価自己評価表（最終）

学校教育目標『夢や目標に向かい 自らを高める』 ～自ら取り組み進んで学ぶ子 自ら考え進んで行動する子 自ら進んで運動する子～

ミッション 子供たちが夢に向かって自己実現できるように、その基盤となる力を育成する。

ビジョン 学ぶことが楽しくなる学校 心が温かく優しくなる学校 心も体もたくましくなる学校

廿日市市立津田小学校

中期経営目標		短期経営目標	目標達成のための方策		担当	評価項目・指標・目標値			評価	結果（●）と考察（☆）		今後に向けて（○）		コメント	
確かな学力（知）	・基礎、基本の力を身に付け、自ら学び、考え、表現する「確かな学力」を育む	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着	・主体的な学びのある授業にするために7つの授業改善に取り組む。（重点） ①算数科の本質にせまる単元構成 ②導入や課題設定の工夫 ③自分の考えをもつ場面の工夫 ④学び合いの授業展開の工夫 ⑤振り返りの充実 ⑥ICT機器の積極的な活用 ⑦主体的に学ぶ態度の育成	教務部	・廿日市学力定着状況調査（4年）【市共通項目】と標準学力調査（4年以外）の国・算の問題で、正答率70%以上の児童の割合 ・全学年算数の学期末テストで、正答率75%以上の児童の割合 ・自ら進んで学習に取り組んでいる児童の肯定的評価	80%以上	A	B	●学力定着状況調査※2月中旬入力予定 ●算数学期末テスト（12月）1年100 2年100 3年50 4年80 5年58 6年32 （平均77→70%） ●児童アンケート「自ら進んで学習に取り組んでいる」94.0%→94.7% ☆算数の学期末テストは、2・5年のptが上昇した。 3・5・6年に課題が見られた。 ☆児童アンケートでは、0.7pt上昇し、進んで学習に取り組む意識がさらに高まっていることが見られた。	○学力定着状況調査で正答率の低い問題を分析して、学校で指導するとともに、保護者にも発信する。 ○「グッバイラーニング」「津田塾」など、基礎的基本的な学力の定着・向上を図る取組を行う。 ○自分の考えをもたせる場面や学び合い・振り返りに重点を置いた指導に継続して取り組み、主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ○研究授業等で作成または使用した教材データについて、職員で共有し活用する。	・基礎基本の定着により「確かな学力」を育むことが重要である。 ・「グッバイラーニング」「津田塾」等、楽しく学習するアイデアが素晴らしく成果が見られる。 ・算数など学年が上がるにつれて学力差が大きくなる教科が課題である。低学年からの学習内容の取組の必要性を感じる。				
						70～79%	B								
						60～69%	C								
						60%未満	D								
		○家庭学習に自ら取り組む児童の育成	・家庭学習ステップアップ週間を学期に1回実施し、家庭学習の定着や生活リズムの見直しを図る。 ・家庭学習の内容を教員間で共有する。 ・家庭学習をする上での環境づくりや学習の仕方などについて教務通信を作成し、発信し、保護者の協力を得る。 ・家庭学習にかかった時間をノートに記録させる習慣を作る。		・児童自ら進んで家庭学習の取り組む姿勢に関する児童・保護者の肯定的評価（学校評価） ・家庭学習の時間調査結果（さいきつ子カード：各学年の設定目標時間の集計）	80%以上	A	A	●アンケート児童「目標時間以上家庭学習に取り組んでいる」92.7→94.7% 保護者「わが子は目標時間、取り組んでいる」88.1→79.2% ●家庭学習ステップアップ週間における目標家庭学習時間の達成 1年85,2年100,3年66,4年90,5年66,6年84,たんばぼ50,すみれ100,全校平均75.5→80% ☆児童と保護者間の差が開いている。保護者が以前より学習を意識して見るようになったと考える。学習時間を可視化するために継続してノート等に記録させる習慣を付ける必要がある。	○家庭学習の際に、ノートやプリントに学習時間を記入する習慣を付けさせたり、学級でもどの程度時間がかかったか聞いたりすることで時間を意識させる。 ○教員と児童で目標家庭学習時間を達成するための取組や達成できなかった要因などを共有する。また、取組前には取組の意図や達成方法などを教務通信・学級通信などで児童や保護者へ伝える。	・「さいきつ子カード」の活用で確実な取組が進み、成果が上がることを期待する。 ・具体的な方法と習慣化を望む。 ・学習時間の可視化は良い。長さだけでなく、時間が短縮できるメリットも感じてほしい。 ・中学校で行っている長いスパン（三日に一度や一週間に一度）で取り組む家庭学習にも慣れてほしい。				
						70～79%	B								
						60～69%	C								
						60%未満	D								
豊かな心（徳）	・基本的生活習慣を身に付け、思いやりをもって行動できる「豊かな心」を育む	★自他の良さを認め合う、自己肯定感・自己有用感の育成	・「つながりタイム」・ソーシャルスキルトレーニング・エンカウンター、話し合い活動など特別活動を充実させる。 ・帰りの会で週に3回は「いいことみつけ」を行い「学年の1枚」を毎月放送・掲示する。 ・教職員による児童への肯定的評価である「津田コーナー」に取り組む。 ・アセスによる学級全体と個人の傾向を把握し、取組に役立てる。 ・縦割り班やペア学年など異学年交流を充実させる。	生徒指導部	・自己肯定感・自己有用感、級友関係の項目に関する児童の肯定的評価	90%以上	A	B	●アンケート児童「自分にはよいところがある」85.9→81.3%「学校・クラスのみんなから認められている」94.1→93.3% ☆アンケート結果から、学校や学級で認め合う空気ができている。しかし、自己肯定感にはまだ課題が見られ、児童の自信を高める取組を行う必要がある。	○児童の自己有用感を高めるために、学級での「いいことみつけ」や、学校全体で児童を育てる「津田コーナー」の取組を継続する。 ○学級活動において、「つながりタイム」を含めエンカウンター活動や話し合い活動を充実させ、児童の人間関係や信頼関係を高める。 ○たてわり班活動やペア学年などの異学年交流の場の充実を図る。	・自己肯定感を高める取組が素晴らしい。優しい子どもたちが育つことを願っている。 ・各学年1学級なので、クラスに居場所をもちにくい子にも、異学年と過ごせる空間・時間が大切である。 ・非認知能力を高めることは簡単ではないが、取組を進めてほしい。				
						80～89%	B								
						70～79%	C								
						70%未満	D								
		◎マナーや規範意識の育成	・「津田小ガイドブック」を活用した共通指導をする。 ・学期末に学校の決まりが守れているか自分を振り返らせる。 ・「あいさつ運動」の取組を継続して行う。 ・自問清掃が徹底するよう自問タイムを設け、確実に行わせる。 ・学期初めに「サンサンウィーク」に取り組む。		・「津田小ガイドブック」にあるマナーや規範意識を守ろうする児童の肯定的評価 ・あいさつ・そうじに関する項目の児童・保護者・教職員の肯定的評価	90%以上	A	A	●アンケート①「津田小ガイドブックを守っている」児童97.0→93.3%②「元気よくあいさつをしている」児童92.6→93.3%保護者87.9→88.7%教職員100→100%③児童「掃除を時間いっぱいする」98.5→96.0%「掃除の行き届いた学校になっている」保護者93.3→94.2%教職員100→100% ☆児童の意識の高さをアンケートから見ることでできた。これら意識や実態を維持継続し、さらに高めていくことが大切である。	○「津田小ガイドブック」の見直しを含め守っていく活動を設定し、共通認識をもたせる。 ○学年・学期のスタートに合わせ、「サンサンウィーク」に取り組む、規範意識を高める。 ○ペア学年などのあいさつ活動を通して児童のあいさつに対する意識を高める。 ○たてわり班活動を中心に、自問清掃の向上を図る。	・「津田小ガイドブック」が具体的に素晴らしい。 ・ガイドブックの中に、小中校の取組を充実するために「みそあじ」が明示されるとよい。 ・一年間の取組をととてもうれしく思う。				
						80～89%	B								
						70～79%	C								
						70%未満	D								
健やかな体（体）	・健康への意識や体力を高め「健やかな体」を育む	◎活力ある生活の基盤となる体力や運動能力の育成	・持久力を高めるために、体育の学習では、毎時間、サーキットトレーニングを行う。また、毎週金曜日の朝トレでは、全校児童を対象にしたトレーニングを行う。 ・児童の体力向上のために、体育委員会が、いろいろな遊びやラジオ体操、朝トレの仕方を紹介して、運動に親しめるようにする。	健康安全部	・各学年、それぞれの目標タイムを達成する児童の割合 1年：2分22秒（4 0 0 m） 2年：2分16秒（4 0 0 m） 3年：3分16秒（6 0 0 m） 4年：3分7秒（6 0 0 m） 5年：3分57秒（8 0 0 m） 6年：3分45秒（8 0 0 m） ※目標タイムは、本校独自に設定 ・1日2回の歯みがきができる児童が75%以上（歯みがきカレンダー）	80%以上	A	D	●目標タイムを達成した児童…全校児童では、48→57%であった。（1年87%2年57%3年66%4年81%5年41%6年31%） ☆学年により達成率に差があり、達成率60%以上が3学年、他の3学年が60%未満であった。 4学年で、目標タイム達成率が10～40%程飛躍的に伸びた。	○体育科の授業での取組に加え、体育委員会を中心に、運動の楽しさを味わえるような活動を設定する。 ○朝トレや休憩時間を活用して持久力を向上するための活動を設定し、児童の自発的な取組を啓発する。 ○持久走の計測など、児童の持久力を定期的に測り、指導改善に取り組む。	・子ども達の体力づくりの継続を願う。 ・個人的には目標タイムをもう少し上げたい。放課後教室でも取り組みたい。 ・日々の取組に加え、様々な協議のアスリートを講師に迎え体験することで、体力向上を目指す必要性や可能性が広がることを願う。				
						70～79%	B								
						60～69%	C								
						60%未満	D								
		○健康に対する意識を高め、歯科保健の実践を通した子どもの口腔環境の改善	・歯科受診を推奨する。（受診勧告を検診後と12月の懇談時と3月の3回配付する。関係機関や校種間での情報共有をする） ・歯みがきカレンダーの取組を行う。（学期に1回） ・歯みがき指導を学級ごとに年1回実施する。（学校医・歯科衛生士・他の機関と連携した学級活動・自立の時間）		・1日2回の歯みがきができる児童が75%以上（歯みがきカレンダー）	75%以上	A	A	●歯磨きカレンダー 1日2回できた児童…85.7→90.7% ＜内訳＞ （1年87.5%2年100.0%3年81.8%4年90.9%5年75.0%6年100.0%） ☆全学級75%以上の結果だった。1学期2学期と比較して低学年の定着がみられた。	○健康委員会を中心に放送や年間パーフェクト賞などを設定し、児童が意欲的に取り組めるようにする。 ○学校医さん・歯科衛生士さん・廿日市市の福祉部と連携を続け、児童の健康への意識を高める。 ○3学期も受診のお知らせを出していき保護者と連携をとる。	・治療のための行動に消極的な点は佐伯地区の課題であるにとらえており、改善のための連携が必要である。中学校でも治癒照明を提出しない家庭が多い。 ・取組の成果が上がっている。継続が大切である。 ・自主的に歯磨きができる子に育ってほしい。				
						65～74%	B								
						55～64%	C								
						55%未満	D								
協働する教職員	・働き方改革に取り組むとともに、協働する職場作りをめざす。	○健康で生き生きとやりがいのある職場の創造	・教職員全員で熟議し、業務改善の推進を図る。 ・働き方改革の研修を行う。 ・定時退校日を週1日（水曜日）設定する。 ・学校教育目標の具現化に向かって「チーム津田」として一丸となって取り組む。	校内衛生委員会	・時間外勤務時間が月平均4 5時間を超えない教職員の割合。 ・長時間勤務の縮減や協働する職場づくりにより教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務している。 ・「チーム津田」として組織的に勤務している。	85%以上	A	A	●毎月の平均時間と超過人数を共通認識し、個人票を配り自覚を促している。4 5時間以上13人中9月1人、10月1人、11月4人、12月4人、1月1人一超えていない割合が71.8→83.1% ●教職員アンケート「生き生きとやりがいをもって勤務している」100%『「チーム津田小』として一丸となって教育活動に取り組んでいる。100% ☆超過人数の割合が、1学期より毎月2人平均で減ってきた。教職員アンケートの数値が100%であった。	○学校行事や会議のもち方など、随時見直しを行っていく。 ○学習アプリを取り入れたり、アンケートを紙媒体ではなく I C T機器を使って行ったりしたことで、配付・回収・集計する手間が省け、業務改善につながった。更にペーパーレスで環境に優しく、経費も抑えられた。 ○教職員アンケートで、100%と高い数値が得られ、一定の成果をあげることができた。	・やりがいをもって取り組んでいる教職員が1 0 0 %となっており、津田小が素晴らしいのは、先生方が素晴らしいからだ。 ・会議のもち方や情報共有の仕方などの工夫で勤務時間が改善されることはもちろんだが、今までの当たり前を変えていけることも大切である。				
						75～84%	B								
						65～74%	C								
						65%未満	D								